

第1回須賀小学校地域拠点施設検討委員会会議録

1 開催日時

令和4年11月16日(水) 19:00~21:15

2 開催場所

進修館小ホール

3 出席者

(委員)

近藤隆委員、石井大晴委員、中村隆委員、上田悟委員、高野桂子委員、
谷義明委員、佐々木誠委員長、唐松奈津子委員、星野花恵委員、乙幡弘子委員、
川野達則副委員長、諸星香代子委員、穴戸ゆみ委員、小坂周平委員

(欠席)

なし

(町長、教育長 途中退席)

新井康之町長、中村敏明教育長

(事務局：教育推進課)

教育推進課長 大場崇明

(事務局：宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクトチーム)

小川雅也(教育推進課教育総務担当)リーダー、

関根雅治(町民生活課地域振興担当)サブリーダー、

吉田直子(子育て支援課こども保育担当)、加藤正久(町民生活課危機管理担当)、

川崎章人(教育推進課生涯学習・スポーツ振興担当)、

高橋道彰(教育推進課教育総務担当)、島村侑希(企画財政課財政担当)、

須原大輔(教育推進課教育総務担当)、福満正寿(総務課人権・男女共同参画担当)、

山下夏鈴(会計室)

(須賀小学校地域拠点施設基本構想策定支援業務受託業者)

株式会社地域デザインラボさいたま 野沢、小野田

4 次第

1 開会

2 挨拶

3 委嘱状の交付

4 自己紹介

5 会議の運営に当たっての確認事項について

- 6 委員長・副委員長の選出について
- 7 須賀小学校の地域拠点施設について
 - (1) 小中学校の適正配置の取組
 - (2) 検討委員会の役割
 - (3) 公共施設マネジメント計画における考え方
- 8 須賀小学校の現状について
- 9 市民ワークショップの報告について
- 10 その他
- 11 閉会

5 議事（要旨）

(1) 新井町長、中村教育長より挨拶

・新井町長

皆様大変お忙しい中、須賀小学校地域拠点施設検討委員会の委員をお引き受けいただき、感謝申し上げます。

児童数の減少、施設の老朽化、ICT化など、学校環境は変化しています。宮代町では教育環境を改善しようと、小中学校の適正配置について、地域の方、議会と10年間に色々話し合いをしてまいりました。しかし、最初にボタンを掛け違えてしまい、中学校の単校化の話が先行してしまいました。「中身の教育をどうするか。子供たちへどういう環境を作ったらいいか。」といった議論が置いていかれてしまい、中々答えを出すことができませんでした。単校化の議論をしている間にも、小学校の老朽化は進んでしまいます。それならば視点を変え、まずは古い小学校から順次建替えやリニューアルをし、子供たちに最高の教育施設を作ることが先であろうと考えております。そのため、20年間という時間をかけて、全小中学校のリニューアルをしていくことへスタートを切ることになりました。今は中学校を単校化するか、については決まっておりません。児童数の地域バランスを見ながら、また、5年後10年後にはどのような状態になっているかをしっかり見極めながら、学校数や適正配置については、もう一度皆様と考えていきます。

建替えやリニューアルに関しては、60年という月日経っている須賀小学校からスタートしていこうと考えています。誰もが集まってきて常に子供たちを見守ることができ、大人も生涯学習活動しながら地域のコミュニティについて考えることができるような、学校だけではない地域拠点施設を作っていく時代になってきていると思います。

皆様には、学校のあり方について、「子供たちのため」、「地域の拠点になるため」、どうすべきかの意見を出し合ってください、いい学校づくりと一緒にスタートさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また先日実施した、市民参加のワークショップにて「どんな小学校がいいか」「小学校にどんな施設があったらいいか」ということを、小学校5年生から80歳代の方に集まっただき、色々なご意見をいただきました。これからもワークショップを繰り返していきながら、出てきた意見を委員会で検討していただいて、須賀地区にとって本当にいい学校を作るようにしていきたいと思っております。これから一年半程度時間をかけていく予定でありますので、よろしくお願いいたします。

・中村教育長

大変お忙しい中、ご参席いただきありがとうございます。

教育という面で、学校は校長を中心に、先生方が色々な教育課程を組み、子供たちを育てていく施設であると思っています。しかしながら、世の中が色々変わってきています。それは勉強の内容だけではなく、世の中のシステム、環境が変化しているということです。私が小さい頃、車は走っていませんでしたが、今は一日中車が走っており非常に危険な状態だと思います。また誘拐や不審者が出るといったこともありませんでした。今は新たな心配があります。そういう意味で、中々目の届かないところを、地域の皆様のお力をお借りして、学校が運営できているということは、紛れもない事実です。

そういうことを踏まえまして、学校施設が、学校だけでなく地域の拠点となるような建物にすること、地域の皆様と共に学校を作っていくことが大事であると思います。

検討委員会では、教育の内容については話し合いませんが、子供たちにとって「どういう地域拠点施設があったらいいか」「どんな関わりを、学校の子供たちと地域の皆様で持てるのか」などの視点を持ちながら、いい学校づくりを進めていただければと思います。まずは須賀小学校からということですが、これがモデルになると良いかもしれません。そういう意味では、皆様のお知恵とお力をお借りして、素晴らしいものを作り上げる案ができるよう、よろしくお願いいたします。

(2) . 委員長、副委員長の選出について

委員より事務局に一任するとの意見により、事務局が佐々木誠委員を委員長、川野達則委員を副委員長に推薦。全委員承認。

(3) . 須賀小学校の地域拠点施設 (1) 小中学校の適正配置の取組について

須賀小学校の地域拠点施設について事務局より資料4に基づき (1) 小中学校の適正配置の取組について説明を行ったところ、以下のような質疑及び意見があった。

近藤委員 資料4の29ページについて、適正配置が妥当であったという理由は何か。

事務局 これから子供たちの数が減っていく中で、これまでの考えを踏襲せざるを得

ないというのが大きな理由。他方で、通学距離が遠くなる等の問題もあるので、安全性の確保は別途必要。また、今後未来が変わっていく可能性も考慮し、計画の柔軟な見直しが必要という考えから、令和9年に再度検討することとしている。

- 近藤委員 事務局長 バスの確保など、安全性の面についても勘案して進めていくのか。
- 近藤委員 事務局長 今回の須賀小学校の地域拠点施設化に関して、基本的に通学エリアは変わらないため、その中でバスを使うというのは考えていない。しかし、今後の小中学校の再編において、通学距離が遠くなり、徒歩や自転車での通学が難しくなる場合においては、多様な交通手段の確保が必要だと考えている。
- 佐々木委員長 本再編計画に関し、地元の方はどのように考えているのか
- 近藤委員 この話を聞いた当初は、中学校の場所が特定されていなかったもので、通学手段や道路の整備等の安全性の確保が不安視された。
- 川野委員 近藤委員と同様に、東武動物公園エリアに中学校を1校設置し、バスで通学するというのが一番考えられる手段だと思っている。しかし、通学時間やバスの本数等の問題で部活動など学校生活の時間が制限されてくる可能性もあるので、その点も考慮して検討する必要がある。
- 六戸委員 令和元年に再設置された小中学校適正配置審議委員会に参加していたが、その際は中学校についての議論がメインであった印象。教員が少なくなることが懸念事項としてあり、1校にすべきとの結論になった。保護者からは、自力で通えない生徒のために、安全性の確保についてはあらゆる手段を駆使して実施してほしいとの意見が強かった。小学校に関しては議論が後回しになっていたが、結局、防災の拠点でもあり、通える範囲が限られているので、小学校は4校体制を維持するという話で終わっていた。現状、笠原小学校と東小学校の再編という話になっているが、過去の審議会においては小学校の再編の話やどこの小学校を再編するというところまでの議論はできていない印象。再配置計画を承認したのでその流れで議論が進んでいるのかと思っている。
- 佐々木委員長 P38に記載および説明がありましたが、令和14年以降の計画に関してはまた改めて協議するとなっている。
- 事務局 小学校に関しては駅を中心に3つに再編してくという方向性は審議会の中でも検討はされていた。たしかに中学校に関しての議論がメインであったものの、駅を中心に多機能化するという大枠の合意形成はなされたと認識。
- 上田委員 本会議の趣旨は、適正配置の議論ではなく、最高の学校をつくるための議論であると思っているがいかがか。
- 佐々木委員長 おっしゃるとおりであるが、初回のため、これまでの検討状況や経緯等について確認する時間も必要。

(4) . 須賀小学校の地域拠点施設 (2) 検討委員会の役割について

須賀小学校の地域拠点施設について事務局より資料4に基づき (2) 検討委員会の役割について説明を行った。委員より特段意見なし。

(5) . 須賀小学校の地域拠点施設 (3) 公共施設マネジメント計画についての考え方

須賀小学校の地域拠点施設について事務局より資料4に基づき (3) 公共施設マネジメント計画について説明を行ったところ、以下のような質疑及び意見があった。

近藤委員 老朽化の話もでていたが、公民館をなくして、須賀小学校に機能を集約することはあるのか。

事務局 和戸公民館が近くのエリアにあるので、現状では、和戸公民館の機能も須賀小学校に集約する方向で検討している。跡地に関しては今後検討。

中村委員 和戸公民館の機能を移転する話がでたが、跡地に集会所を整備するのはいかがか。

事務局 公民館跡地の活用については現状白紙の状態。集会所という案についても、今後アイデアの一つとして検討していきたい。

川野委員 先ほどの上田委員と同様に、我々の役割はどのような気持ちで議論してくかは重要であると思う。質問として、公民館を須賀小学校に移動した場合、一般の人が入りやすくなるため、生徒にとっては危険性があると思うがいかがか。

事務局 保護者にとっては子供たちの安全確保が一番大切であると思う。全国的にも小学校の複合化の事例が増えてきている。先行事例の現地視察を通じて、安全性の確保、導線の確保、予防方法、多くの人の目が入る環境などを検討していきたい。

佐々木委員長 建築的には、導線を完全に別にしたり、入り口は同じでもスクールガードを置くなどしたりする方法があると思うので、視察も含めて、検討できればと思う。

上田委員 リニューアルというのは、建て替えなのか、増改築なのか、具体的にはどのようなイメージなのか。

事務局 現時点では、国・県と補助金等の調整しており、財源も確保できそうな状況のため、建て替えの方向で進めている。ただし、財源の確保ができるか否かで、今後変更はありえる。

上田委員 建て替えを前提とするのであれば、ワークショップの中で出た学校施設でのやりたいことの様々なアイデアが叶えられると思う。他都市でも図書室やPC室を地域住民に開放して大盛況だった事例があるが、課題としては、常駐者が必要であったり、土日の開放について検討したりする必要がある。

佐々木委員長 第2期公共施設マネジメント計画のワークショップの開催報告の中には、埋もれている人材の活用や、地域のコーディネーター、市民によるプロデューサー等の様々な人が関わるというイメージが入っている。いただいたご意見についても、今後検討を進める中で、参考にさせていただきたい。

(6) 須賀小学校の現状、市民ワークショップの報告について

須賀小学校の現状、市民ワークショップの報告について事務局より資料5、6に基づき説明を行ったところ、以下のような質疑及び意見があった。

小坂委員 市民ワークショップに参加した中で、当日の様子に関しては、様々な意見が出たが、全体を通して希望を持っているなと感じた。明るい未来を作りたい雰囲気も感じた。すべての声を叶えることは難しいが、少しでも実現したいと思った。

諸星委員 私も市民ワークショップに参加して、仕事を離れてからも地域とつながっていることが大切であると思った。学習の場を作ってもらえると、仲間ができて、地域が広がっていくと思った。いつでも行って勉強ができる図書館や、地域の人が集まってお茶が飲めるスペースなど、やりたいことが溢れていて、それが今後どのような形になるのか、ワクワクした一日だった。

星野委員 すごく有意義な時間だった。図書館は須賀小学校地域からは遠く、車で行く場合は、大人がいないと行けない。須賀小学校には図書館が必要だと改めて感じた。ワークショップでは、高齢の方も含めて、たくさんの前向きな意見が出ており良い機会だった。いろいろな人が行きたいなと思う所ができたらいと思った。

上田委員 子供に夢や希望を持たせることが大人の仕事だと思う。

事務局 来年度もワークショップを実施するので、より多くの地域の方に関わっていただきたい。

高野委員 現状では、本当に校舎が老朽化している。ブレーカーがすぐ落ちてしまったり、夏はトイレの匂いがきつく普通教室を置けなかったりといった問題もある。本日は、地域の皆様の熱い思いが伝わった。学校の立場で言うと、子供が育つ場を「最高」という言葉で表していただいております、子供たちは幸せであると感じた。少子化や単学級となると、地域の大人の方々の支援が益々必要になってくると思う。大人が学んだり、楽しんだり、安らいだりするところを、日常的に子供が見ることができる環境は、子供が育っていく場としてとても良いと思う。それが地域の方々の喜びにつながり、地域に派生していく。そんな小学校になっていくのだろうと感じた。防犯の面については、視察等で勉強していきたい。

- 谷委員 昨年までいた学校が統廃合で廃校になった。廃校後に学校に立ち寄ってみたが、やはり学校は人がいないと駄目だと思つづく思つた。子供のための学校であるが、子供だけでなく、地域に開かれて、地域も育つ場であることが大切であると思つている。20年後には、素晴らしいものができると思つた。
- 石井委員 希望的感想が多いと思つた。この場には、校長先生や各組織の代表が集まっているが、最終的に施設を建て直すという話になった時に、大変なのは学校職員。宮代町がそうとは思わないが、基本的には教育委員会が手伝ってくれる中でも学校に任される話だと思つた。予算、期間、マンパワーの問題もあるので、学校職員の意見を聴きながら、理想のみではなく現実的な範囲で、取組を進めてほしい。
- 乙幡委員 公民館利用者の多くは高齢者。子供が使っていると、賑やかでとても楽しい空間に変わる。そのように、地域の小学校と高齢者が一緒に活動できるのはとてもよい取組であると思つた。
- 唐松委員 先ほど話題に上がった学校職員の負担という話にも関係するが、学校の複合化では、地域の人を利用するだけでなく、どれだけ運営に加担してくれるかが上手くいくポイントだと思つている。また、外部者の立場としては、なぜ今回の再編計画を、須賀小学校から進めているのかについて伺えると今後の議論の参考になる。このまま建て替え前提で話が進んで行くと、今後の再編に影響が出ないのか気になった。
- 事務局 須賀小学校が選定された理由については、20年間の建て替え計画の中で、地域に残す小学校に関してはその場所で再整備していくという方向性であり、築年数が経過している須賀小学校と百間小学校の内、より古い須賀小学校からスタートするという事になった。

(7) . その他

委員謝礼について、事務局より説明が行われた。

今後のスケジュール予定について、事務局より説明が行われた。

佐々木委員長 今回は、未来についての前向きな意見や慎重な意見の双方あったが、今後も活発な議論の場となるよう、よろしく願ひいたします。

以上